

なぜ岸和田市社会福祉協議会が災害支援活動に取り組むのか

近年、災害時のボランティア活動については、社会的関心が高まり、そのコーディネートに関わる災害ボランティアセンターの役割や機能についても注目が集まっています。

全国各地で発生している自然災害の被災地では、地元の社会福祉協議会（以下、「社協」）が中心となり、災害ボランティアセンターを設置する事例が多く、被災地の復旧や復興の中心的な役割を担っています。

社協は、社会福祉法 109 条に「地域福祉を推進する中核的な団体」として規定されており、社会福祉関係団体・機関、そして地域住民の参加・協力を得て、地域課題の解決にあたることを使命とする民間の福祉団体です。

岸和田市においても、社協は、住民をはじめ、行政を含む各種関係機関・団体と連携して、「誰もが孤立せずに安心して暮らせるまちをつくる」という基本理念のもと、日々の取組みを進めています。

ここでは、まず社協がなぜ災害ボランティアセンターの設置・運営を中心的に担うのか、その意義を整理します。

- 日頃から地域福祉を進める団体として、行政機関、市内の福祉関係機関・団体と連携している。
- 地区福祉委員会、ボランティア連絡会等、エリア型、テーマ型両方の NPO・市民活動団体と連携し、住民が主体となって行う地域での助け合い活動を進めている。
- 日頃からボランティアセンターを運営し、福祉分野に留まらない幅広いネットワークを持ち、様々な団体と協働実践を進めている。
- 専門的なスキルと知見を持って要援護者支援・当事者支援の取組みを行っている。
- 全国の社協とのネットワークを活かして、人的・物的支援を受けることができる。

社協が災害支援活動に取り組むのは

災害時、外部からの支援を受け、被災した地元住民が必要とする支援をいち早く届けるためには、日頃からまちづくりに関わっている地元関係者の連携が必要不可欠です。

また、被災地の復興は、地元住民が力を発揮して助けあいながら進めていきます。

社協は、日頃から住民と共に地域づくりに関わっているからこそ、災害時にも、地域福祉の視点を持って、助けあい活動のコーディネートと復興に向けた新たなコミュニティづくりができる団体として期待されているのです。